

藤沢市
市民活動に関するアンケート調査

報告書（概要版）

2022 年（令和 4 年） 1 月

藤沢市

これは、令和3年度に実施した、「市民活動に関するアンケート調査」の概要報告書です。この結果は、藤沢市市民活動推進計画（令和元年度～令和7年度）における市民活動促進の施策について、今後のあり方を検討するうえで、貴重な資料として活用させていただきます。

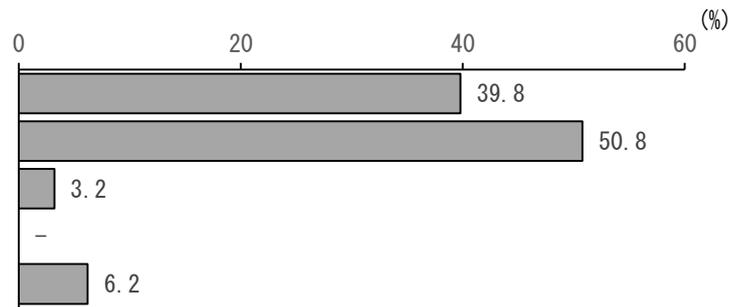
調査の概要		
調査の 設計	◆調査対象	市内に住所のある満15歳以上の市民
	◆対象者数	3,500名
	◆標本抽出	無作為抽出
	◆調査方法	郵送による配布・回収方式
	◆調査期間	令和3年11月8日（月）～12月8日（水）
	◆有効回収数	1,487件 ※調査期間終了後12月20日（月）までの回収分を含む。
	◆有効回収率	42.5%
調査 項目	<ul style="list-style-type: none"> ●地域活動について ●市民活動について ●ボランティア活動について ●寄付について ●その他 	

※本文、図表中に用いられる「n」は回答者数であり、グラフの数値はすべて回答者数を基数とした比率（%）です。少数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
複数回答では、%の合計が100%を超える場合があります。

基本属性

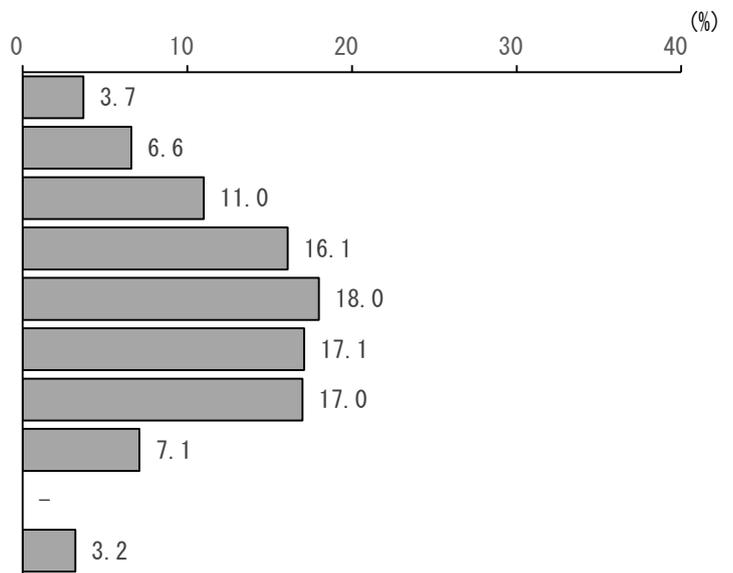
(1) 性別

	基数	構成比
男	592	39.8%
女	755	50.8%
回答しない	48	3.2%
不明	0	0.0%
無回答	92	6.2%
全 体	1,487	100.0%



(2) 年齢

	基数	構成比
10 歳代	55	3.7%
20 歳代	98	6.6%
30 歳代	164	11.0%
40 歳代	240	16.1%
50 歳代	268	18.0%
60 歳代	255	17.1%
70 歳代	253	17.0%
80 歳以上	106	7.1%
不明	0	0.0%
無回答	48	3.2%
全 体	1,487	100.0%

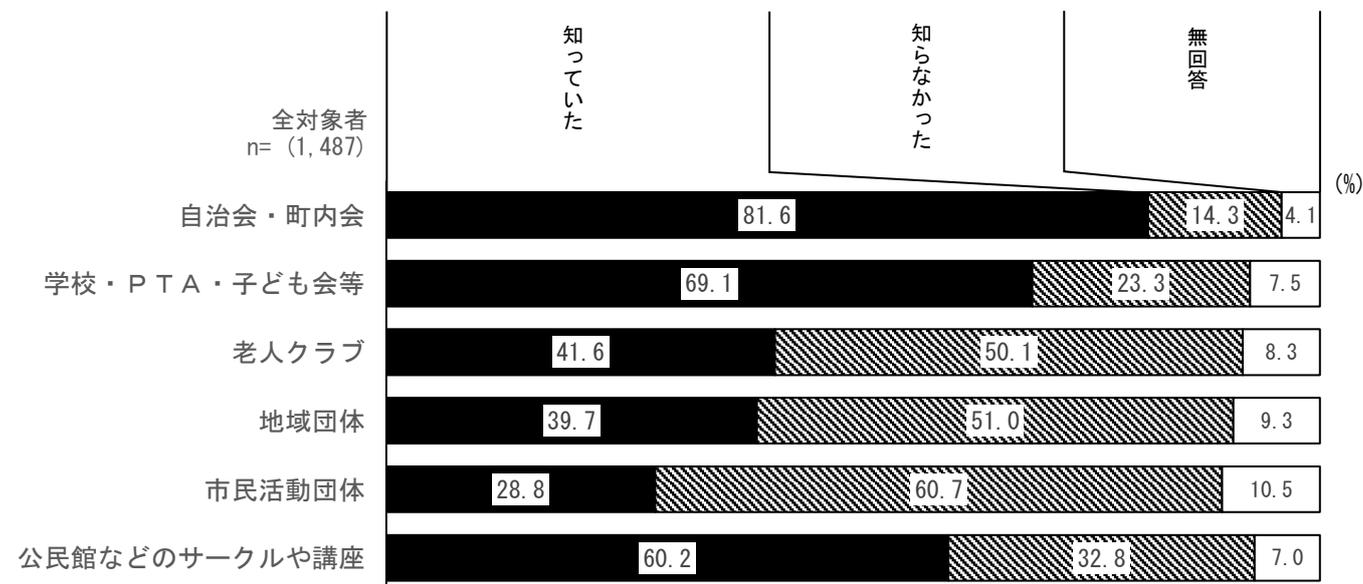


1 地域活動について

地域活動の周知状況

地域活動の周知状況について、「知っていた」割合は「自治会・町内会」が81.6%と最も高く、次いで、「学校・PTA・子ども会等」(69.1%)、「公民館などのサークルや講座」(60.2%)の順となっています。

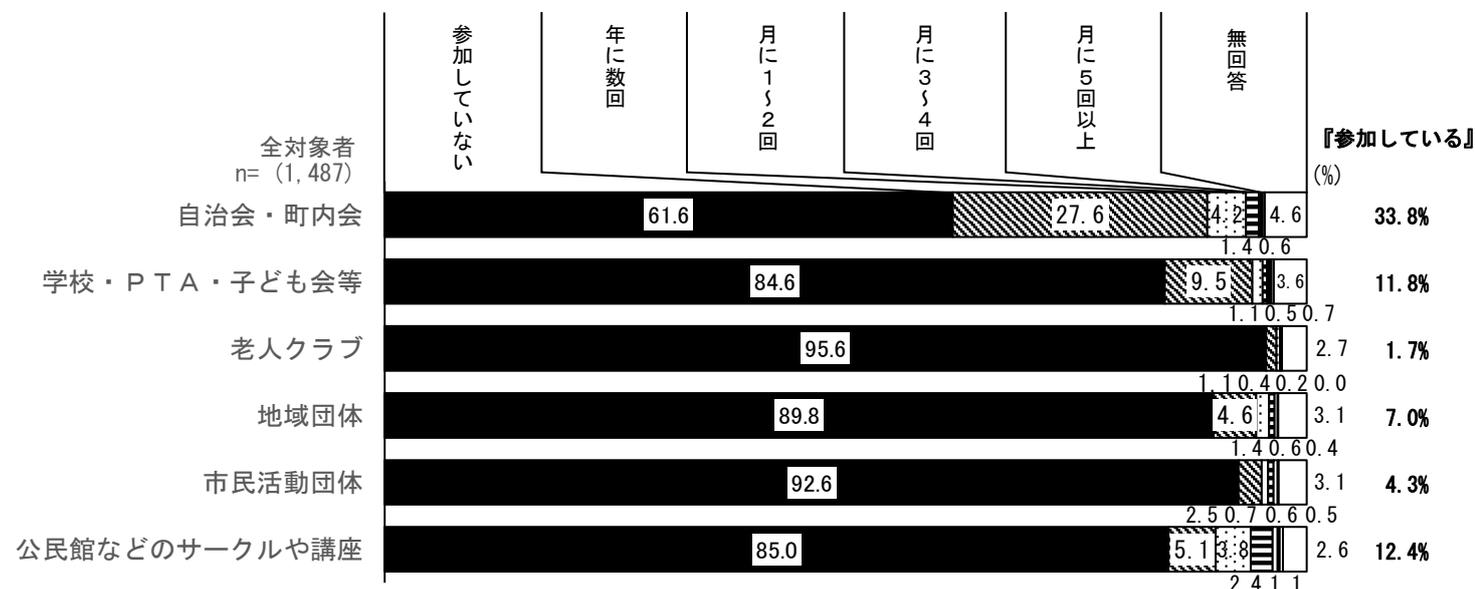
一方、「市民活動団体」については60.7%が「知らなかった」とし、「老人クラブ」(50.1%)、「地域団体」(51.0%)も、「知らなかった」が5割を超えています。



地域活動への参加頻度

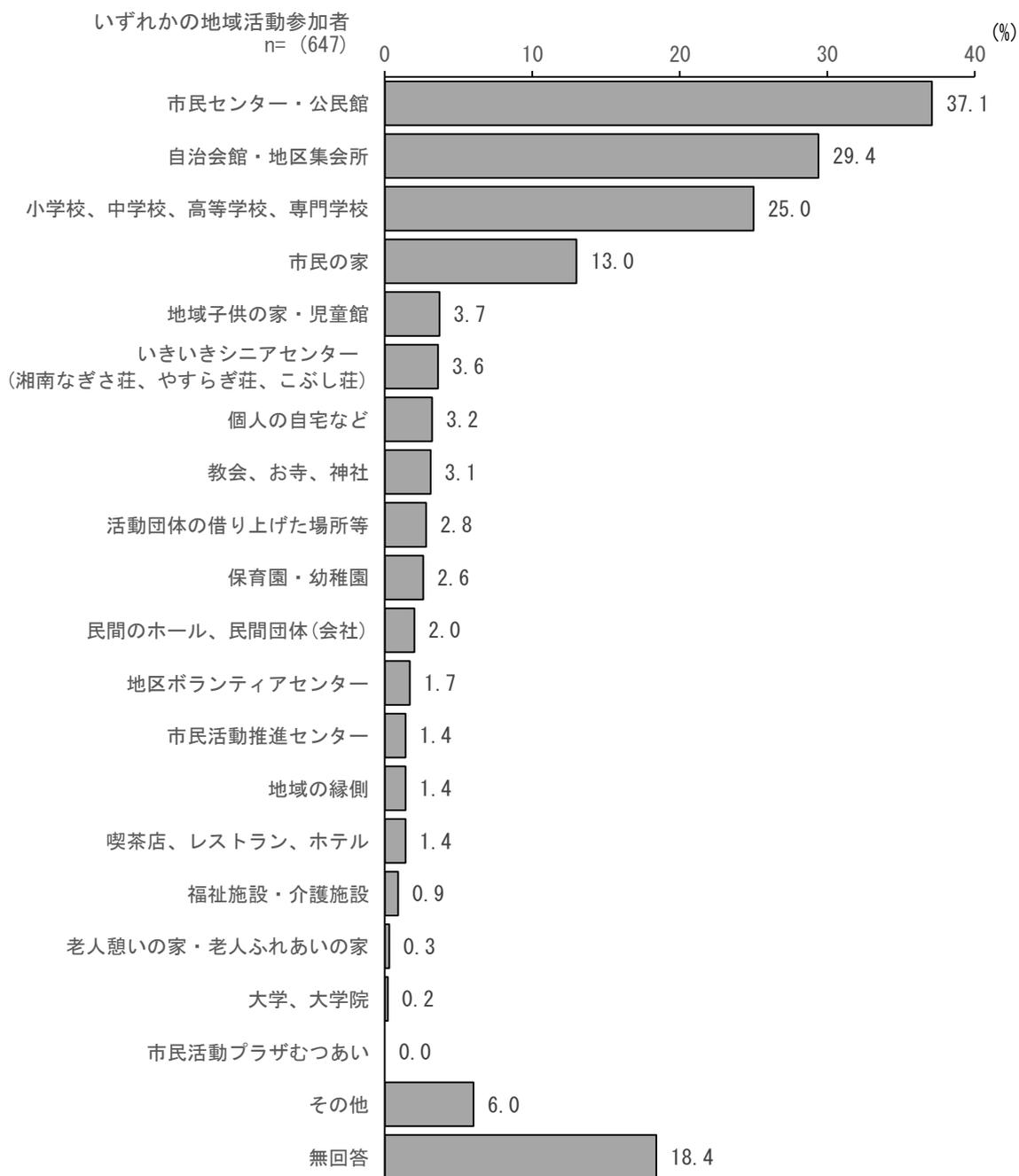
地域活動への参加状況について、「月に5回以上」「月に3~4回」「月に1~2回」「年に数回」を合わせた『参加している』層の割合は「自治会・町内会」が33.8%で最も高いものの、「参加していない」は6割を超えています。

それ以外の活動について、『参加している』層の割合が最も高いのは「公民館などのサークルや講座」(12.4%)で、次いで「学校・PTA・子ども会等」(11.8%)、「地域団体」(7.0%)、「市民活動団体」(4.3%)、「老人クラブ」(1.7%)の順となっています。



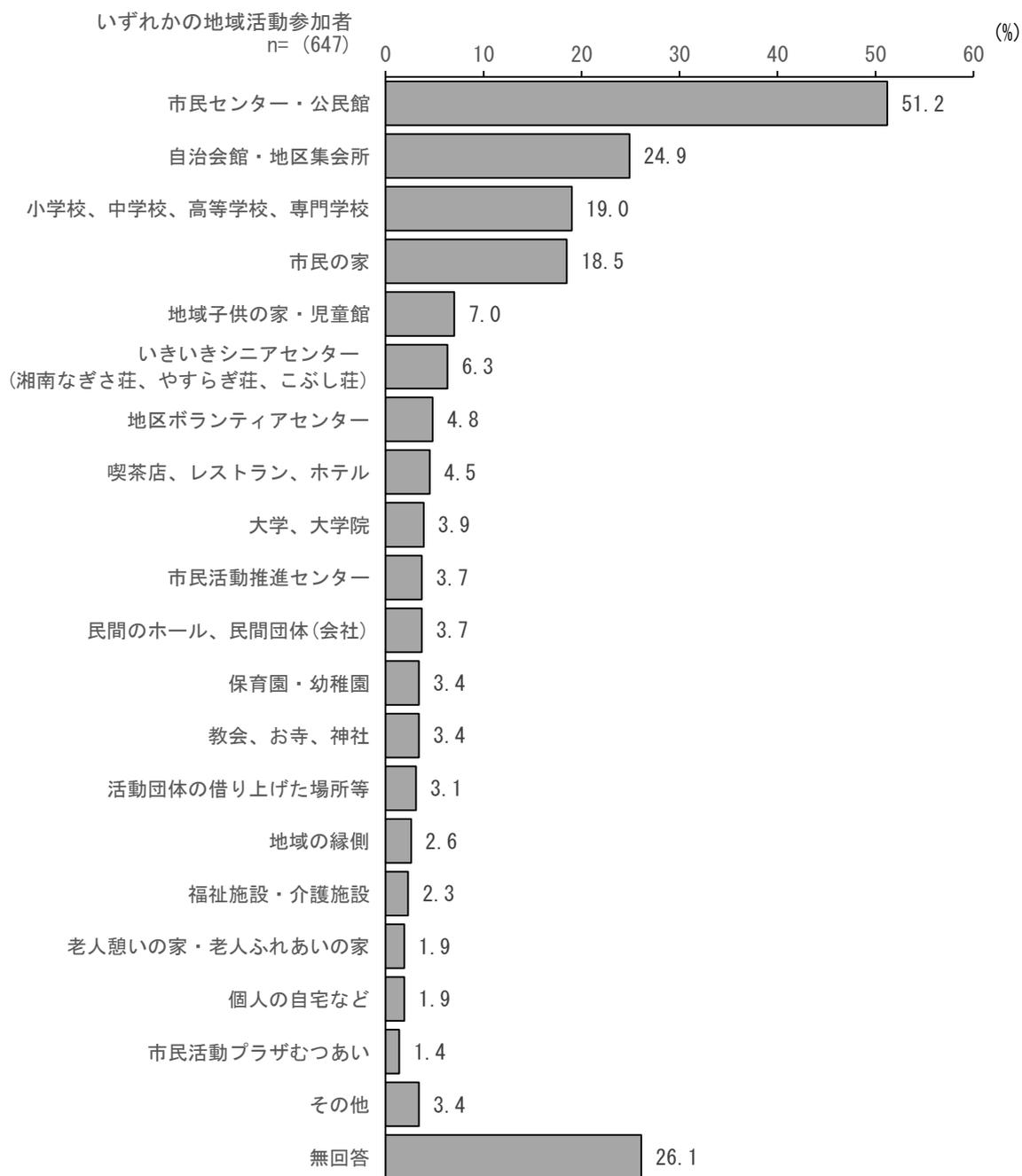
地域活動を行う場として利用している施設

地域活動を行う場としては「市民センター・公民館」を利用している割合が37.1%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(29.4%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(25.0%)、「市民の家」(13.0%)の順となっています。



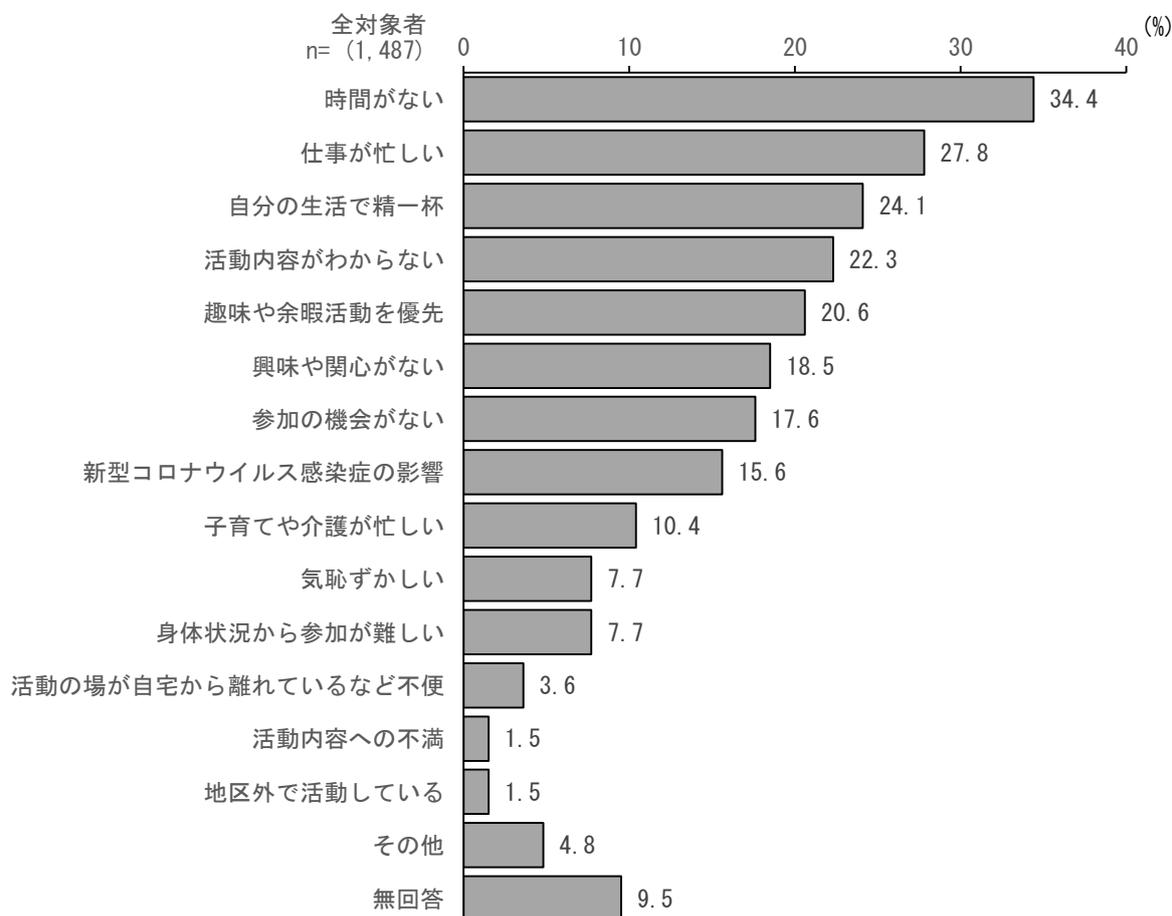
地域活動を行う場として今後利用したい施設

地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」を挙げる割合が51.2%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(24.9%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(19.0%)、「市民の家」(18.5%)の順となっています。



地域活動に参加することに妨げとなること

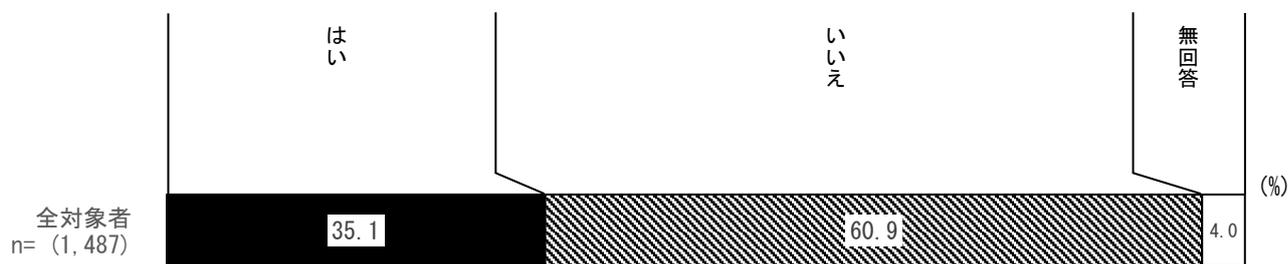
地域活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が34.4%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(27.8%)、「自分の生活で精一杯」(24.1%)、「活動内容がわからない」(22.3%)、「趣味や余暇活動を優先」(20.6%)の順となっています。



2 市民活動について

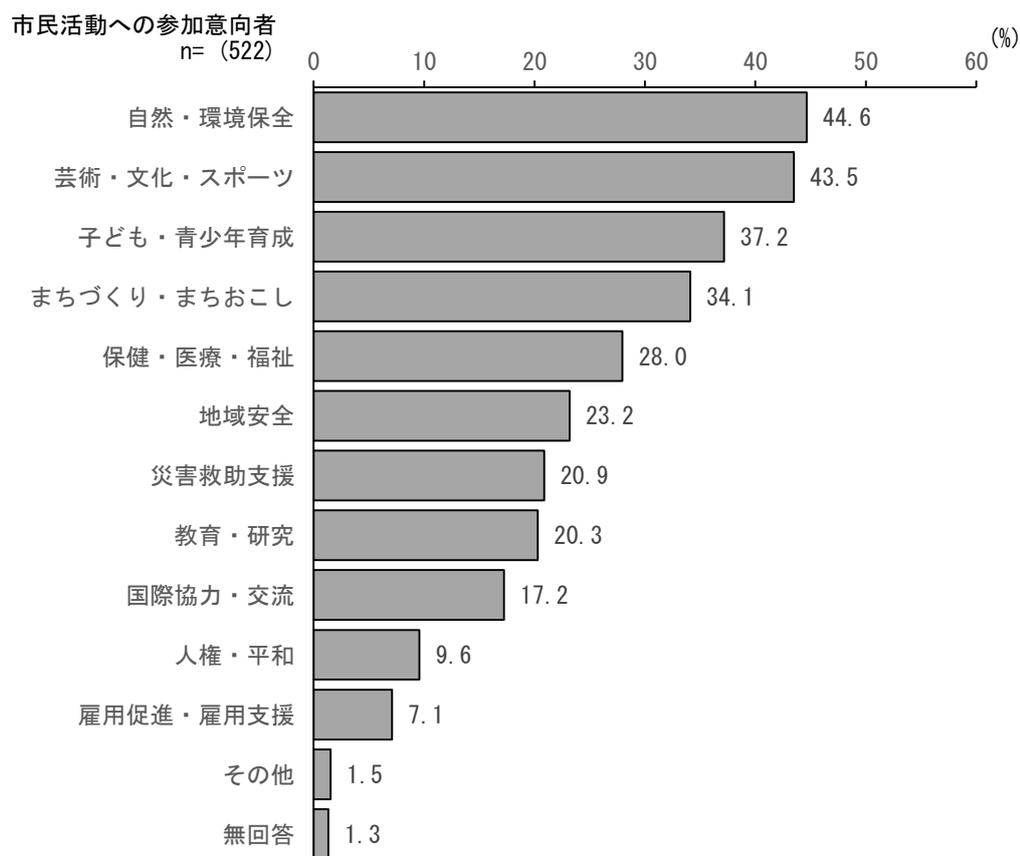
市民活動への参加意向

市民活動への参加意向については、「はい」が35.1%、「いいえ」が60.9%となっています。



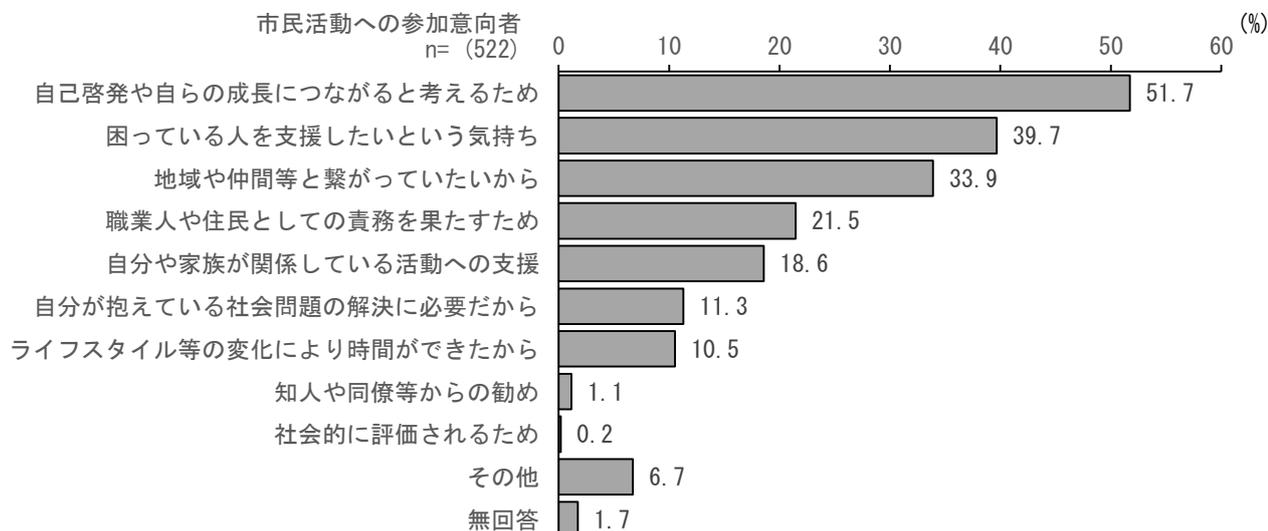
参加したい市民活動の分野

参加したい市民活動については、「自然・環境保全」が44.6%と最も高く、次いで、「芸術・文化・スポーツ」(43.5%)、「子ども・青少年育成」(37.2%)、「まちづくり・まちおこし」(34.1%)、「保健・医療・福祉」(28.0%)の順となっています。



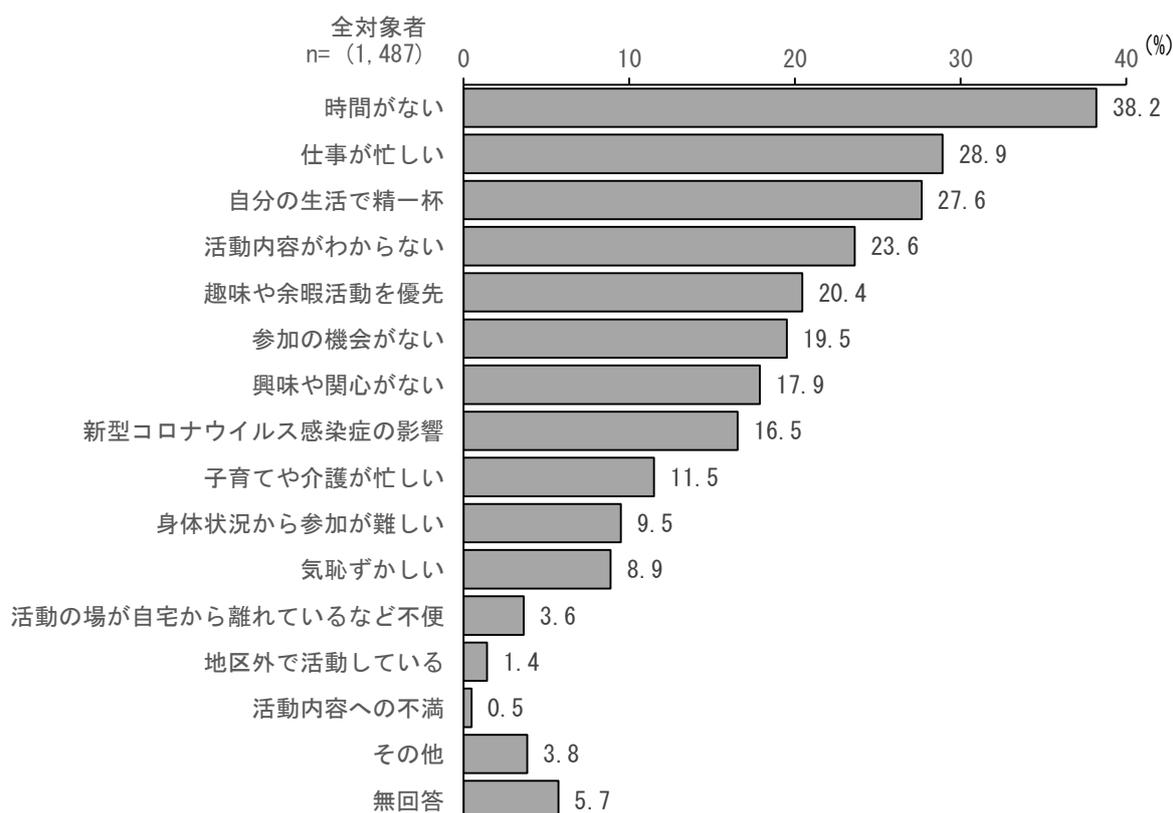
市民活動に参加する理由

市民活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながるため」が51.7%と最も高く、次いで「困っている人を支援したいという気持ち」(39.7%)、「地域や仲間等と繋がりたいから」(33.9%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(21.5%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(18.6%)の順となっています。



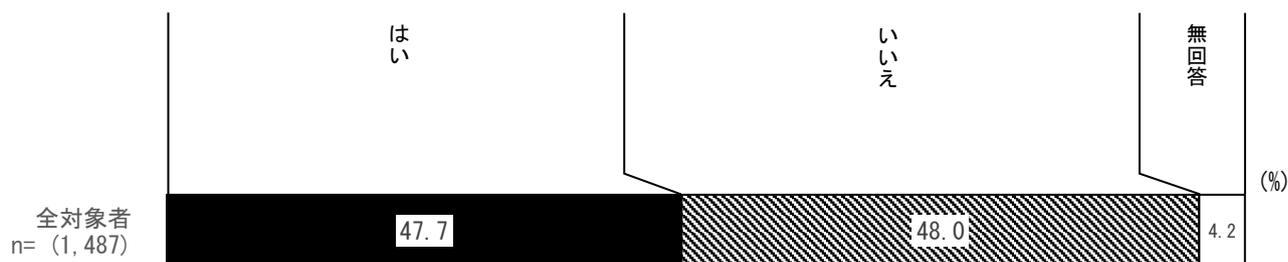
市民活動に参加することに妨げとなること

市民活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が38.2%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(28.9%)、「自分の生活で精一杯」(27.6%)、「活動内容がわからない」(23.6%)、「趣味や余暇活動を優先」(20.4%)の順となっています。



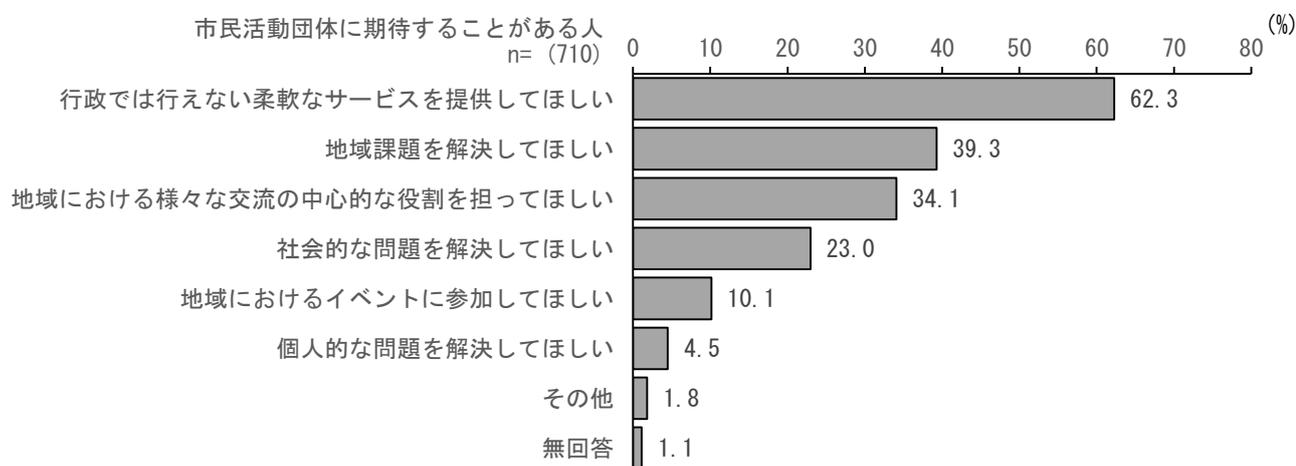
市民活動団体に期待することの有無

市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が47.7%、「いいえ」が48.0%となっています。



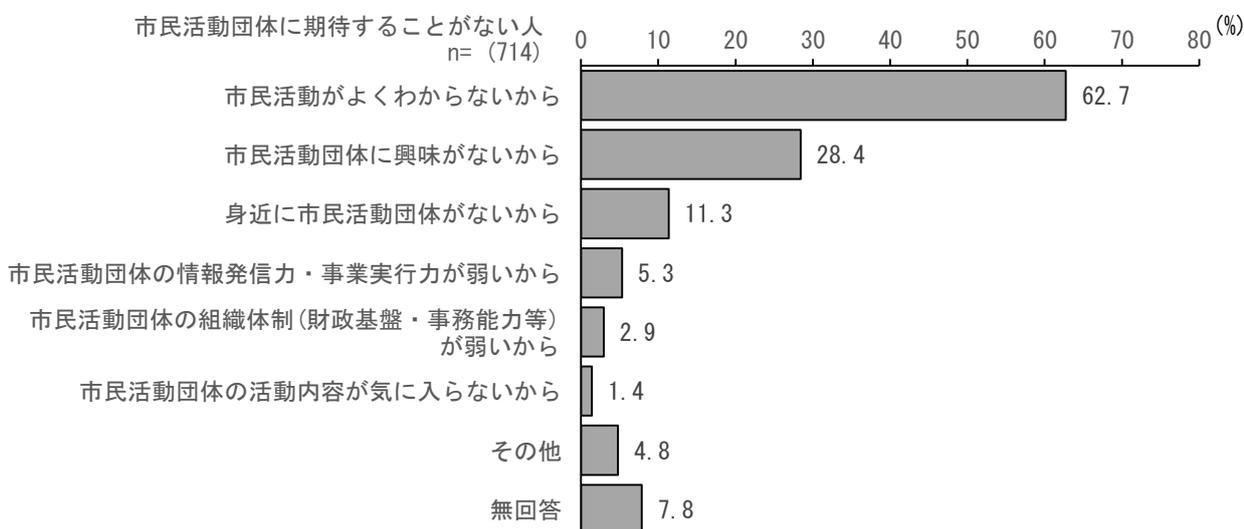
市民活動団体に期待することの内容

市民活動団体に期待することの内容については、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」が62.3%と最も高く、次いで、「地域課題を解決してほしい」(39.3%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(34.1%)の順となっています。



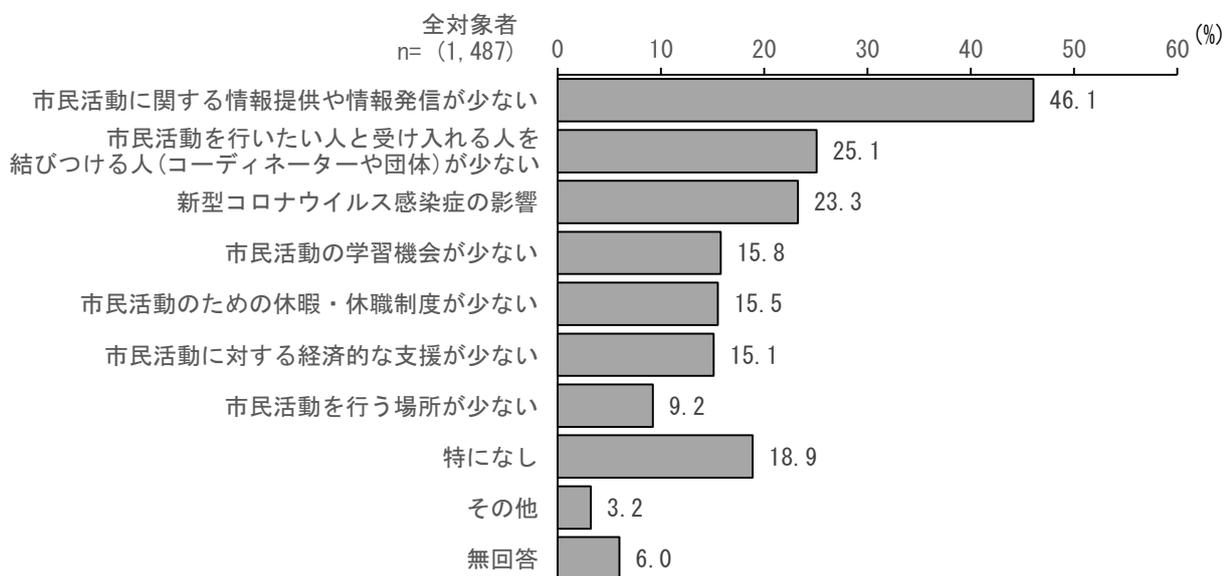
市民活動団体に期待することがない理由

市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が62.7%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(28.4%)、「身近に市民活動団体がないから」(11.3%)の順となっています。



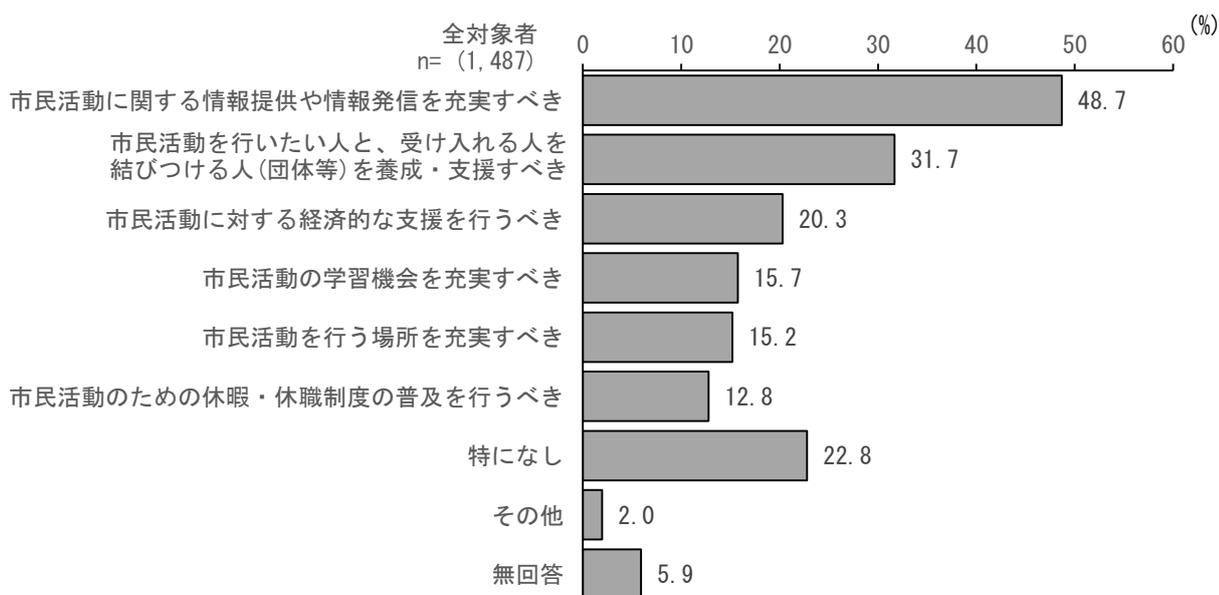
市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと

市民活動団体が活動するときに妨げになると思うことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が46.1%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人（コーディネーターや団体）が少ない」（25.1%）、「新型コロナウイルス感染症の影響」（23.3%）の順となっています。



市民活動について市に望むこと

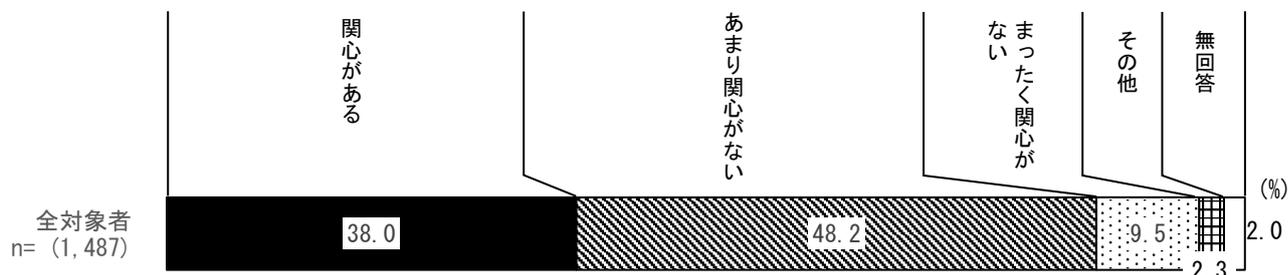
市民活動について市に望むこととしては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が48.7%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」（31.7%）、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」（20.3%）の順となっています。



3 ボランティア活動について

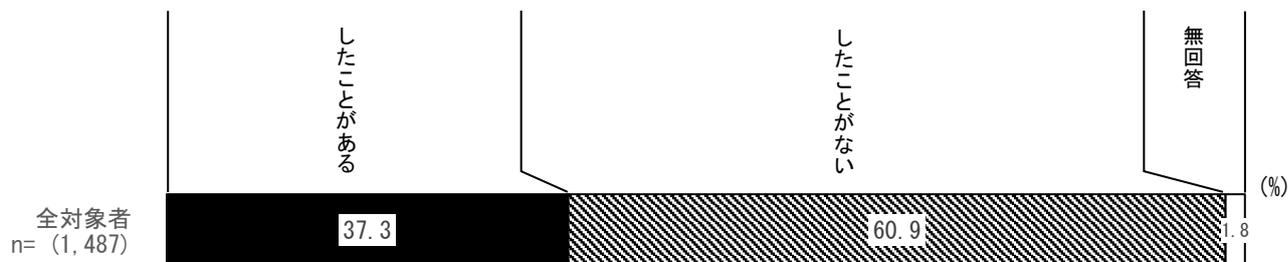
ボランティア活動への関心の有無

ボランティア活動への関心については、「関心がある」が38.0%、「あまり関心がない」が48.2%、「まったく関心がない」が9.5%となっています。



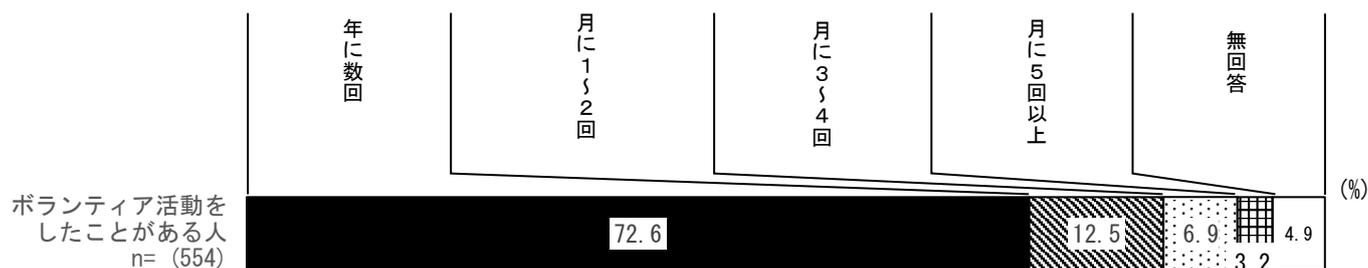
ボランティア活動の経験の有無

ボランティア活動の経験については、「したことがある」が37.3%、「したことがない」が60.9%となっています。



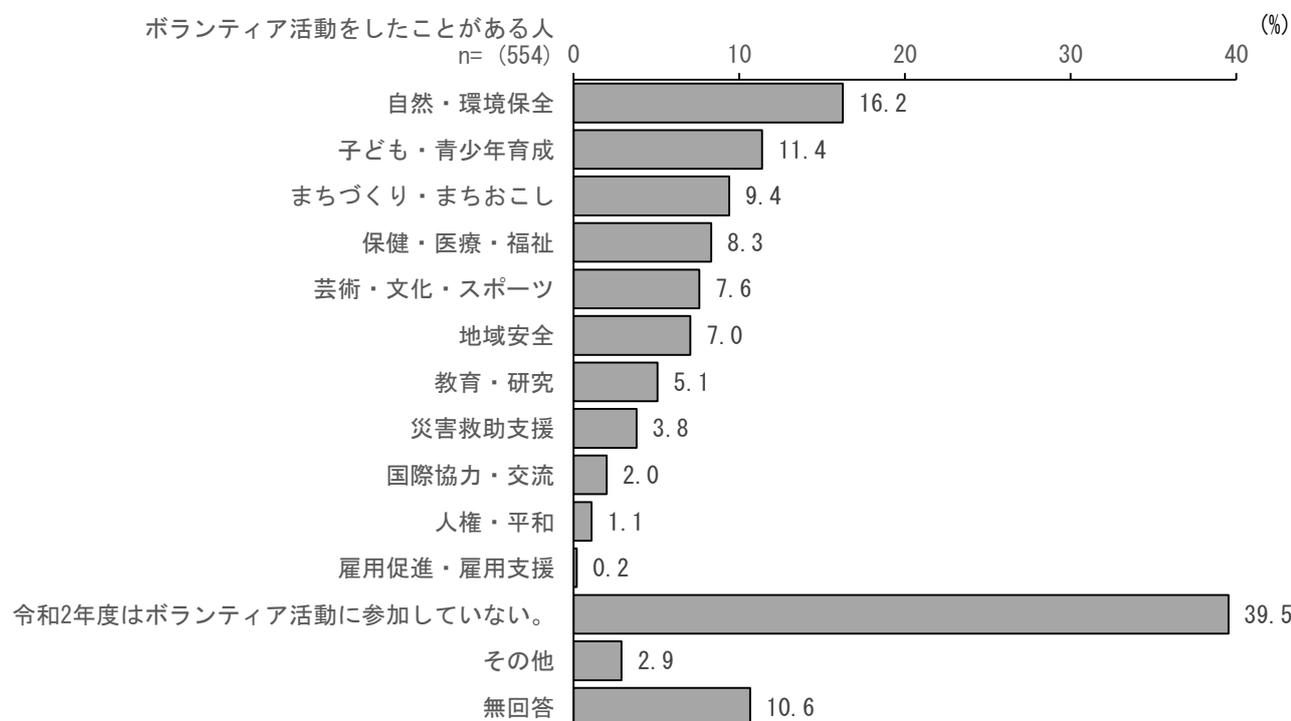
ボランティア活動への参加の頻度

ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」が72.6%と最も高く、「月に1~2回」が12.5%、「月に3~4回」が6.9%、「月に5回以上」が3.2%となっています。



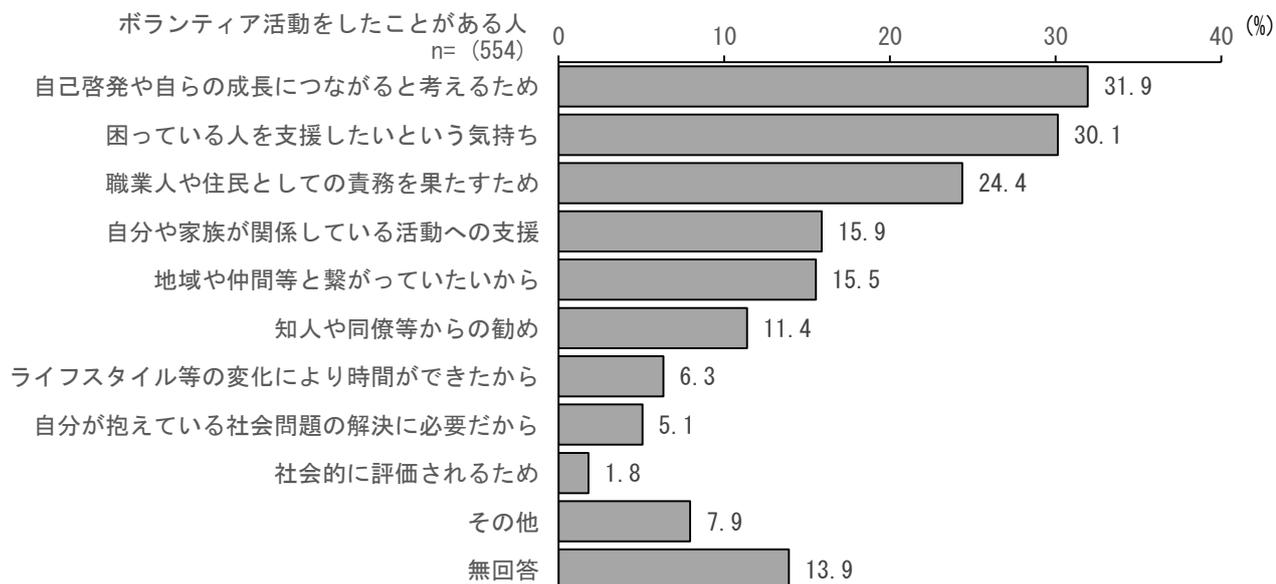
令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動

令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動については、「自然・環境保全」が16.2%と最も高く、次いで、「子ども・青少年育成」(11.4%)、「まちづくり・まちおこし」(9.4%)、「保健・医療・福祉」(8.3%)、「芸術・文化・スポーツ」(7.6%)の順となっています。なお、「令和2年度はボランティア活動に参加していない」人は39.5%となっています。



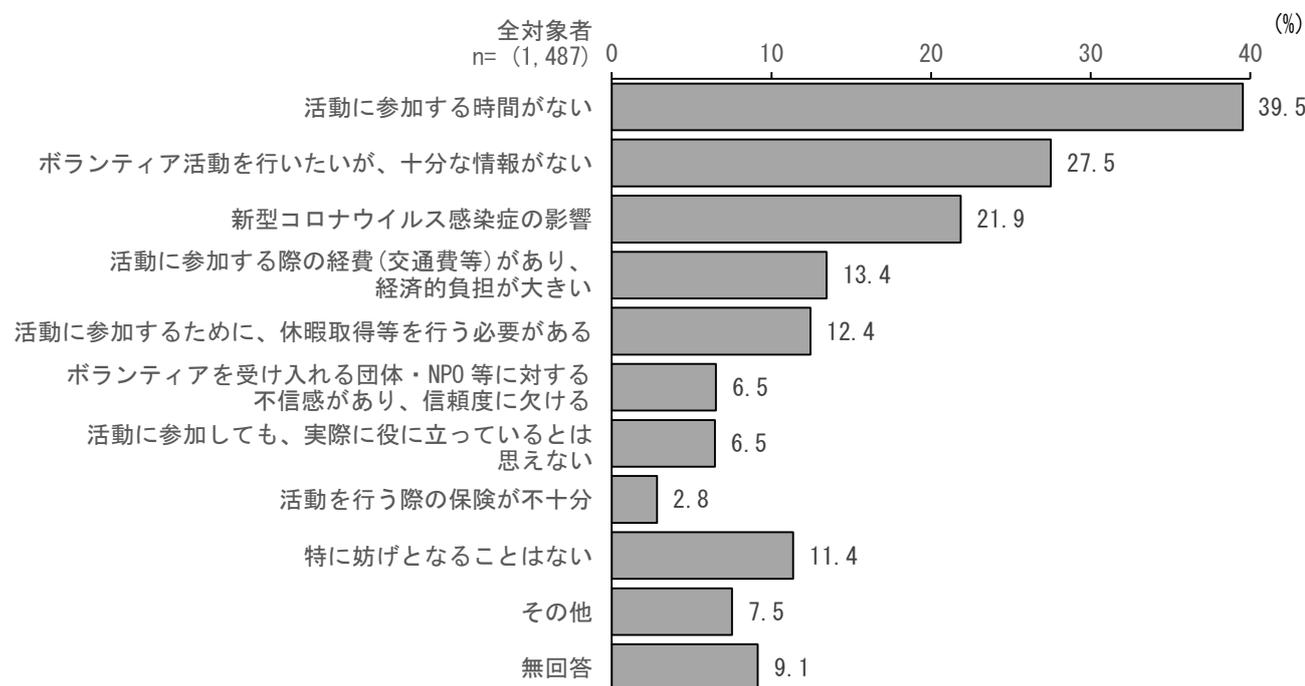
ボランティア活動に参加する理由

ボランティア活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながるため」が31.9%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(30.1%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(24.4%)の順となっています。



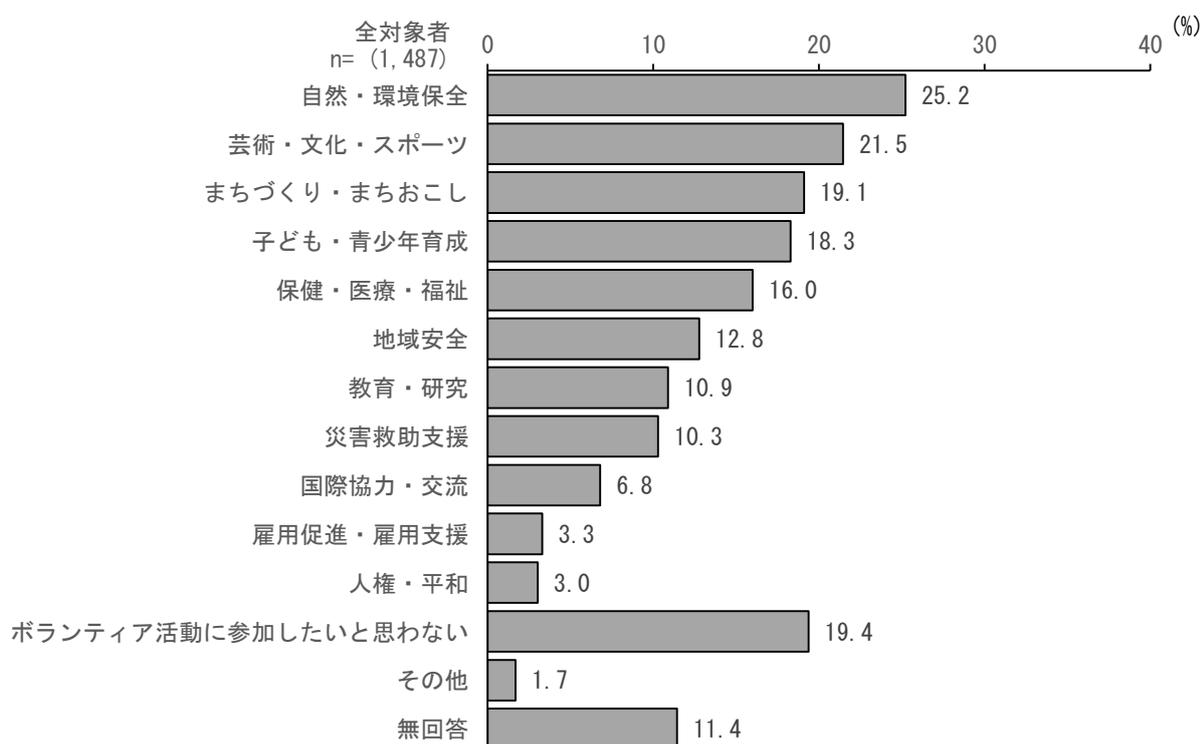
ボランティア活動に参加することに妨げとなること

ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が39.5%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」(27.5%)、「新型コロナウイルス感染症の影響」(21.9%)の順となっています。



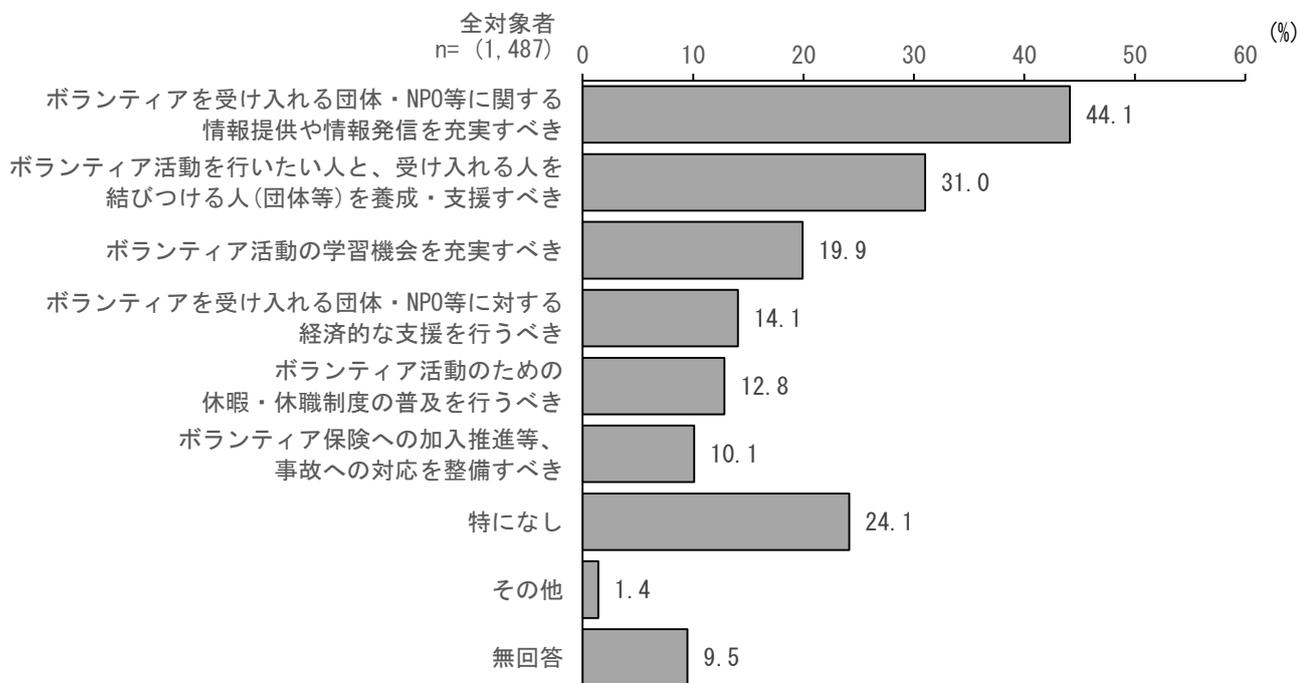
今後参加したいボランティア活動の分野

今後参加したいボランティア活動については、「自然・環境保全」が25.2%と最も高く、次いで「芸術・文化・スポーツ」(21.5%)、「まちづくり・まちおこし」(19.1%)、「子ども・青少年育成」(18.3%)、「保健・医療・福祉」(16.0%)の順となっています。



ボランティア活動について市に望むこと

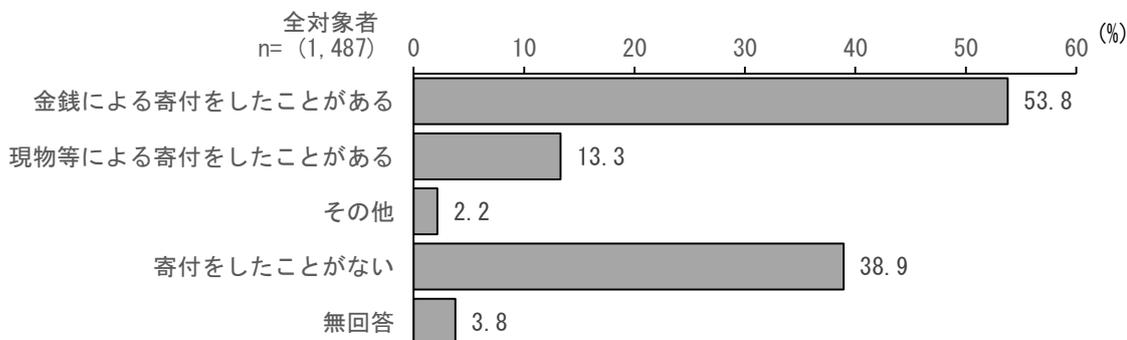
市民活動について市に望むこととしては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が44.1%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」（31.0%）、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」（19.9%）の順となっています。



4 寄付について

寄付経験の有無

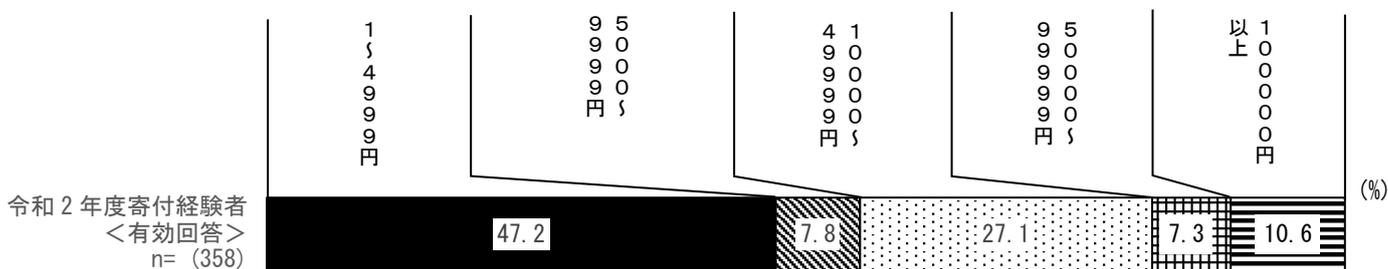
寄付経験については、「金銭による寄付をしたことがある」が53.8%、「現物等による寄付をしたことがある」が13.3%である一方、「寄付をしたことがない」人は38.9%となっています。



令和2年度に寄付した金額・回数、現物等を寄付した回数

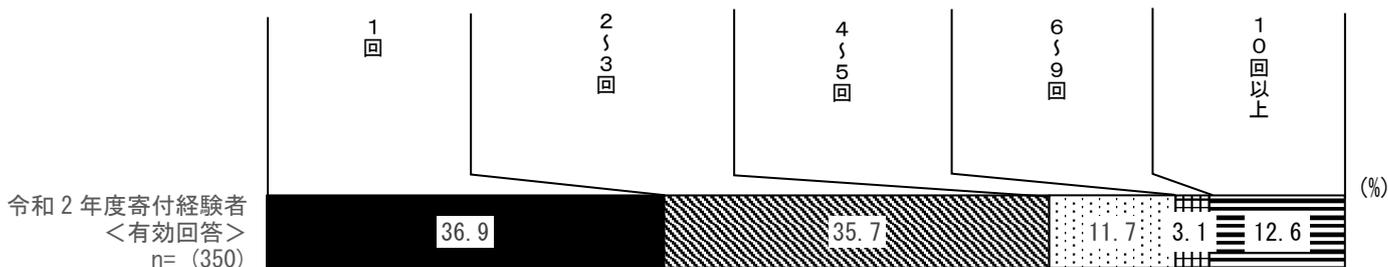
<年間寄付金額（個人）>

年間の寄付金額は、「1～4,999円」が47.2%と最も高く、次いで「10,000～49,999円」(27.1%)、「100,000円以上」(10.6%)、「5,000～9,999円」(7.8%)、「50,000～99,999円」(7.3%)となっています。なお、寄付額の平均は32,176円となっています。



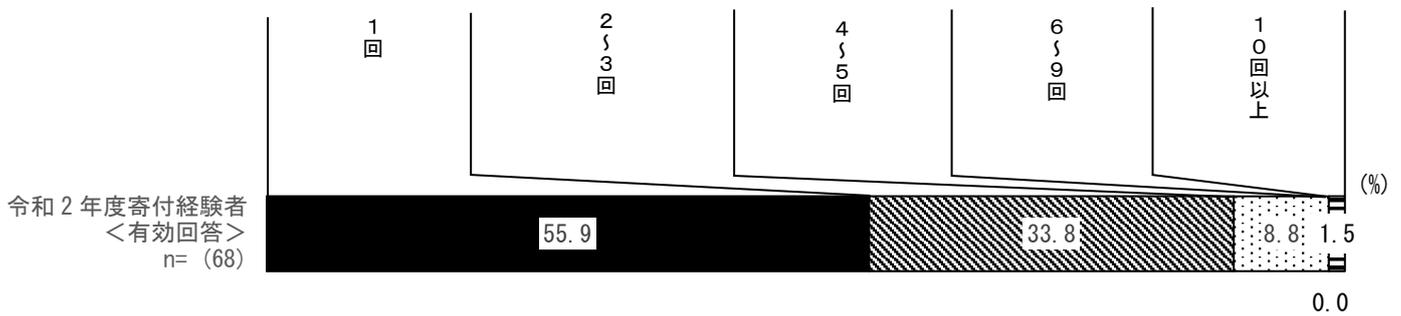
<年間金銭寄付回数>

年間金銭寄付回数については、「1回」が36.9%と最も高く、次いで「2～3回」(35.7%)、「10回以上」(12.6%)、「4～5回」(11.7%)、「6～9回」(3.1%)となっています。なお、寄付回数の平均は3.5回となっています。



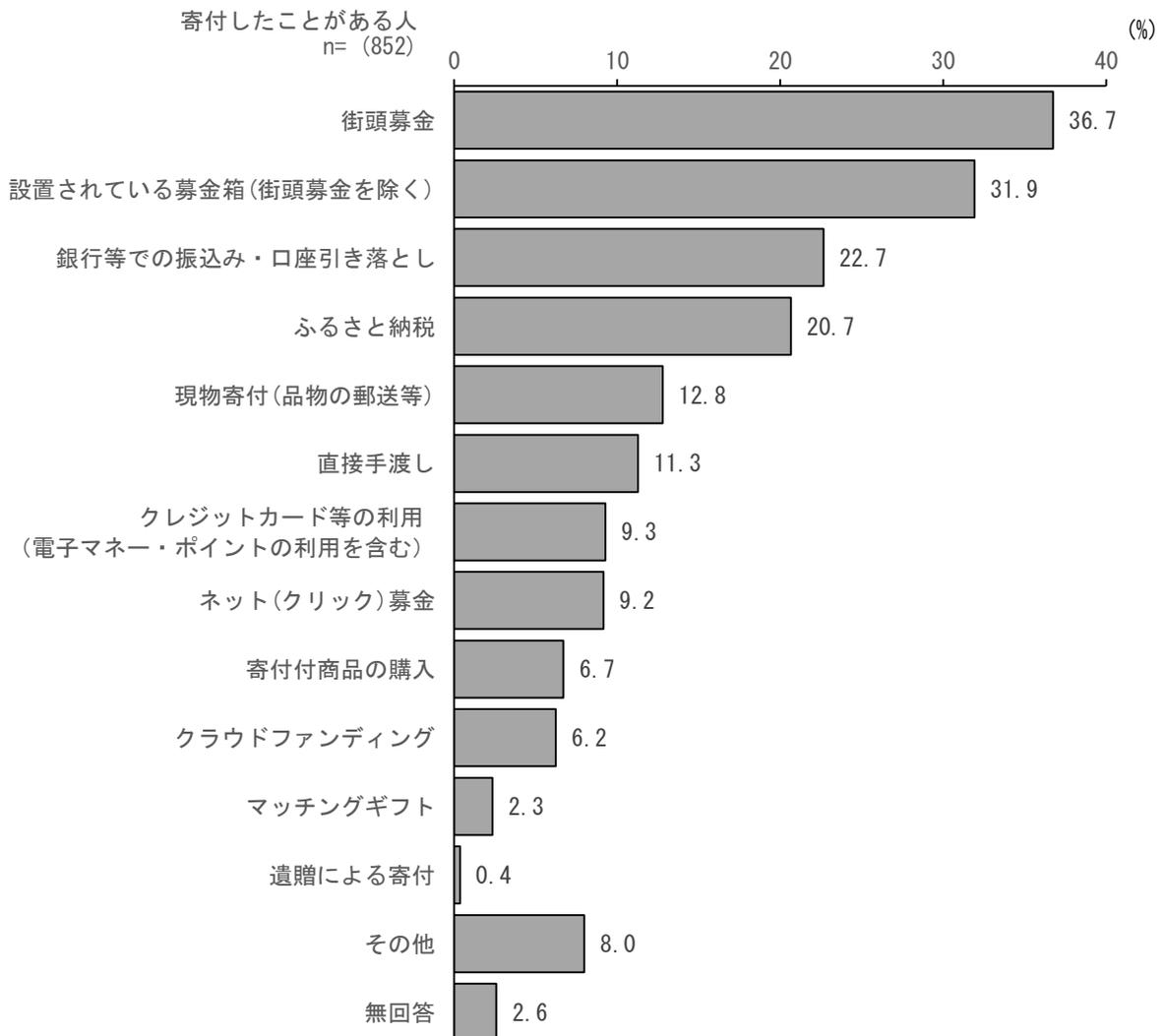
＜年間現物等寄付回数＞

年間現物等寄付回数については、「1回」が55.9%と最も高く、次いで「2～3回」(33.8%)、「4～5回」(8.8%)、「10回以上」(1.5%)、「6～9回」(0.0%)となっています。



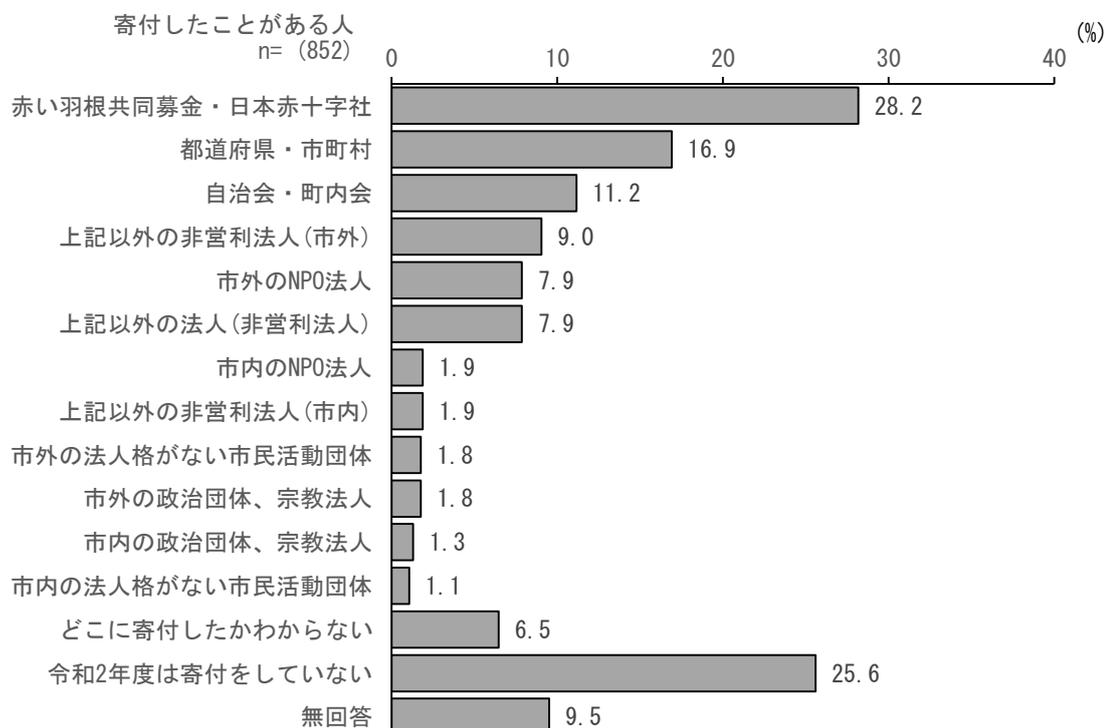
寄付を行った方法

寄付を行った方法については、「街頭募金」が36.7%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」(31.9%)、「銀行等での振込み・口座引き落とし」(22.7%)の順となっています。



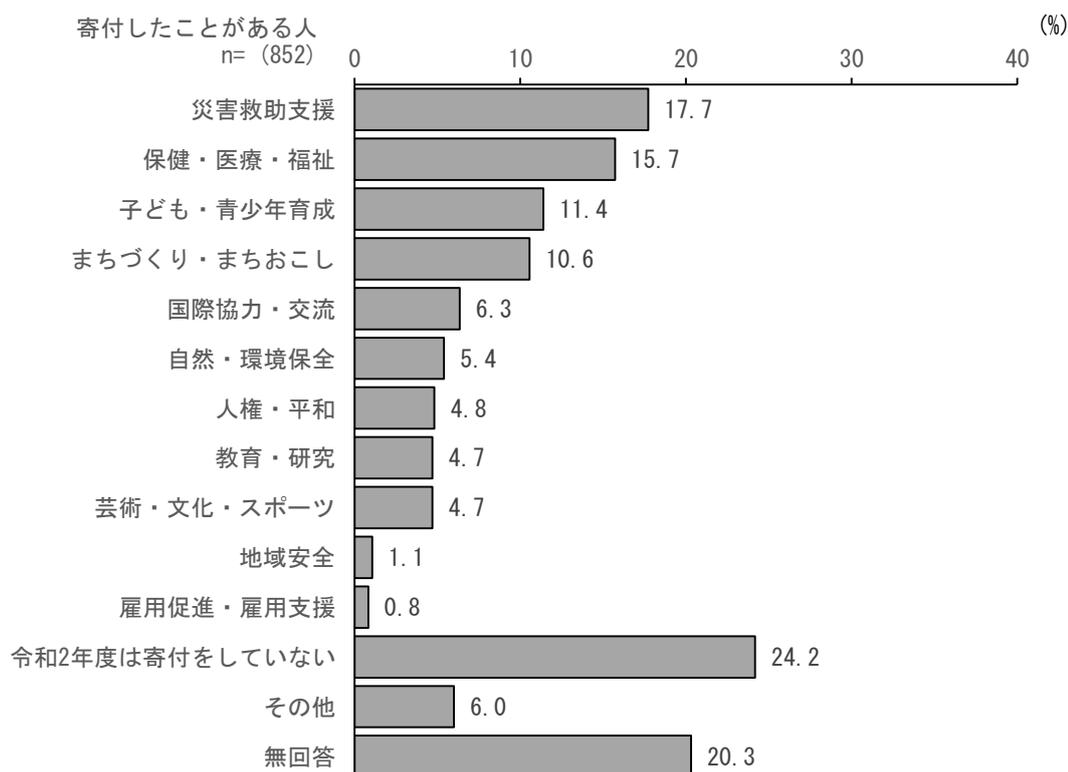
令和2年度に寄付をした団体

令和2年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が28.2%と最も高く、次いで、「都道府県・市町村」(16.9%)、「自治会・町内会」(11.2%)の順となっています。



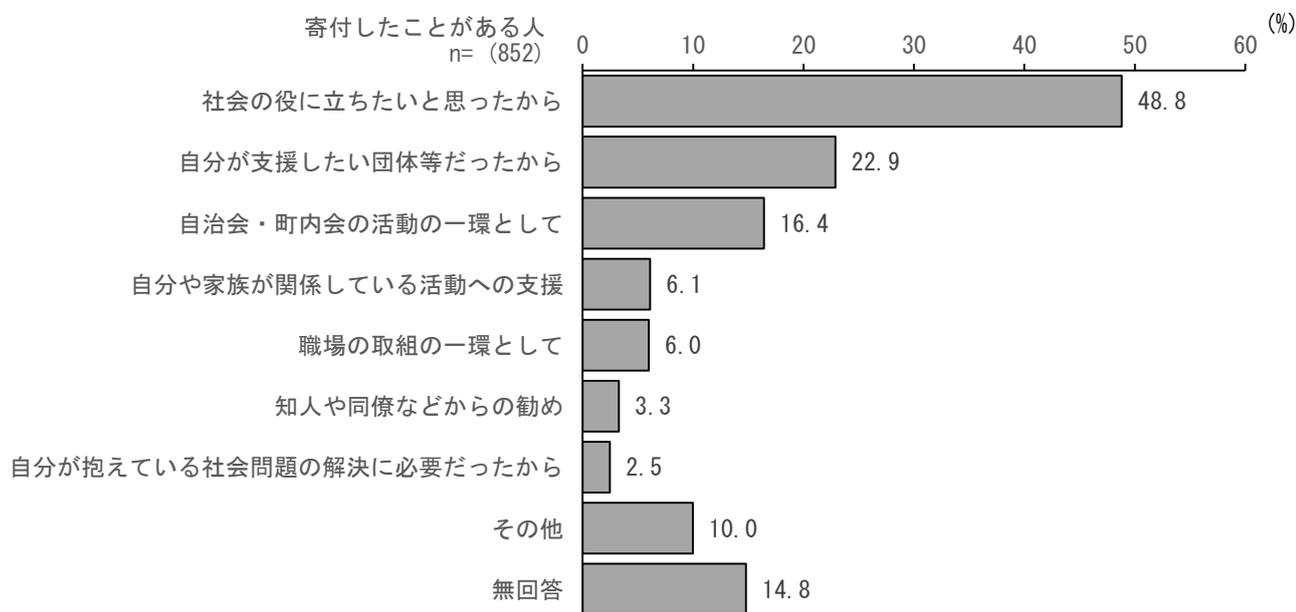
令和2年度に寄付をした分野

令和2年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が17.7%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」(15.7%)、「子ども・青少年育成」(11.4%)、「まちづくり・まちおこし」(10.6%)の順となっています。



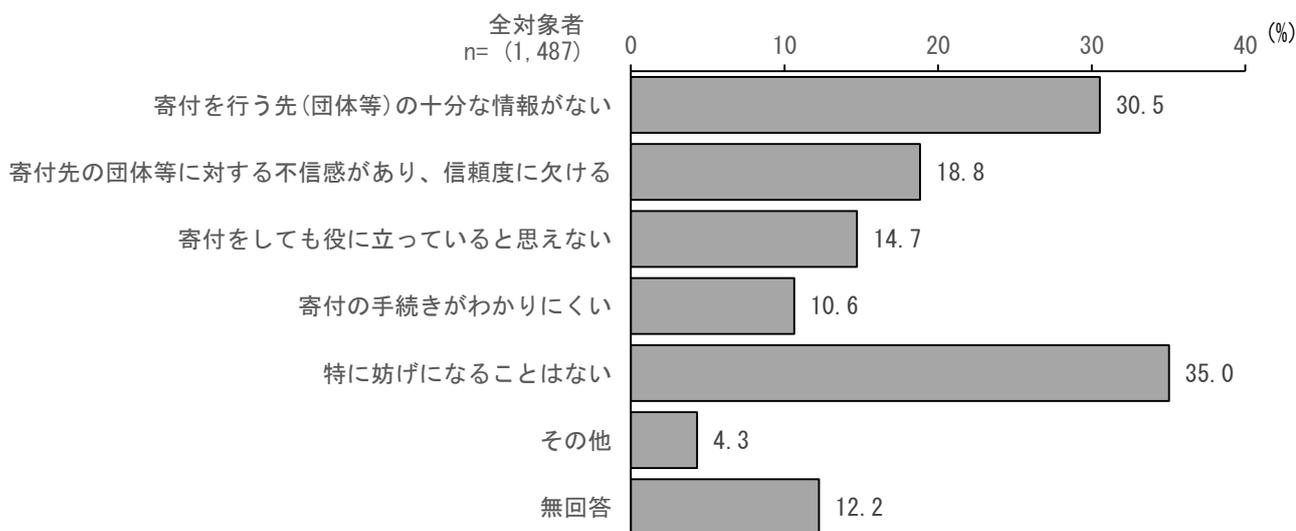
寄付をした理由

寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が48.8%と最も高く、次いで、「自分が支援したい団体等だったから」(22.9%)、「自治会・町内会の活動の一環として」(16.4%)の順となっています。



寄付をするにあたり妨げとなること

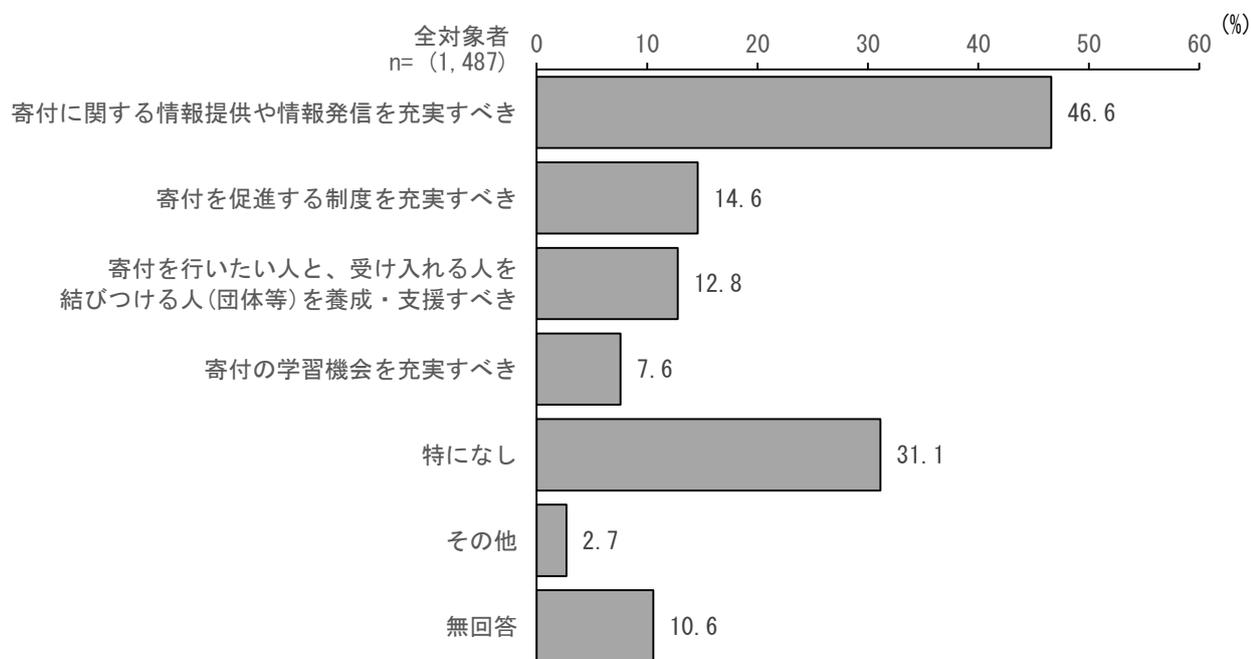
寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が30.5%、次いで「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(18.8%)、「寄付をしても役に立っていないと思えない」(14.7%)、「寄付の手続きがわかりにくい」(10.6%)の順となっています。なお、「特に妨げになることはない」と回答した人は35.0%となっています。



寄付促進のため市に望むこと

寄付促進のため市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が46.6%と最も高く、次いで「寄付を促進する制度を充実すべき」(14.6%)、「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(12.8%)、「寄付の学習機会を充実すべき」(7.6%)の順となっています。

なお、「特になし」と回答した人は31.1%となっています。

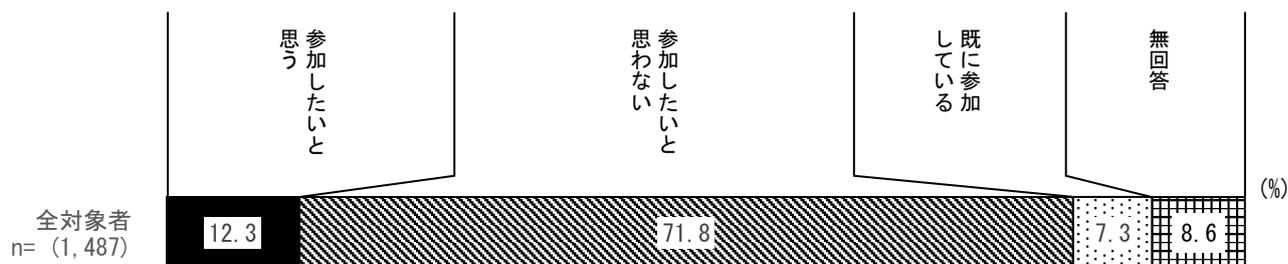


5 その他

新型コロナウイルス感染症をきっかけとした地域・市民活動等への参加意向

新型コロナウイルス感染症をきっかけとした地域・市民活動等への参加意向については、「参加したいと思う」が12.3%、「参加したいと思わない」が71.8%となっています。

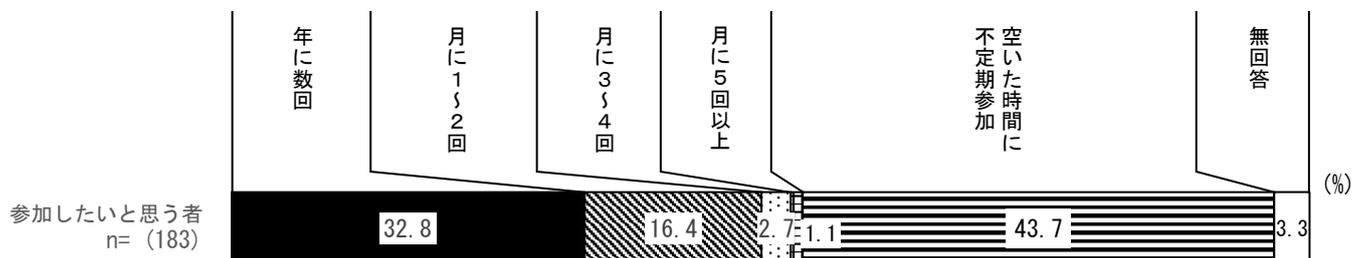
なお、新型コロナウイルス感染症の影響に関わらず「既に参加している」と回答した人は7.3%となっています。



<参加頻度について>

新型コロナウイルス感染症をきっかけに、どのくらいの頻度で地域・市民活動に参加したいと思うかについては、「月1～2回」が16.4%、「月に3～4回」が2.7%、「月に5回以上」が1.1%となりました。

なお、「年に数回」と回答した人は32.8%、「空いた時間に不定期参加」と回答した人は43.7%となりました。



藤沢市
市民活動に関するアンケート調査
報告書（概要版）

発行日／令和4年1月

発行／藤沢市市民自治部市民自治推進課

〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1-1

TEL 0466-25-1111（代表）

FAX 0466-50-8407